

令和4年度 川内南小学校 学校評価 学校教育に関するアンケート結果分析と今後の方策について

本年度も残りわずかとなりました。1月には、学校評価のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。集計したアンケート結果について、学校運営協議会で、学校関係者（学校運営協議会委員）からご意見をいただきました。そのご意見も入れた、主なアンケート結果の分析と今後の方策を次のように報告させていただきます。保護者の皆様と児童のアンケート結果は、別紙の通りです。

今後とも、本校教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

教育目標	知・徳・体の調和がとれ、社会を生き抜く力をもつ児童の育成
今年度のスローガン	あいさつ 無言清掃 徒歩通学 自楽自学

	保護者・児童アンケート結果分析	今後の方策
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的基本的な知識・技能の習得については、昨年同様達成できている。今後も家庭と連携しながら、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を実現していく。 ○主体的に学習に取り組む態度も指標を達成することができた。さらに学習への主体的な取り組みが高まるよう、授業改善を続けていく。 ○「発表・表現」については指標を下回っている。自ら考え表現しようとする意欲の向上を図るよう、次年度以降、授業の工夫改善に努めていく必要がある。 ○読書冊数だけでは評価が難しいので、目標の見直しが必要である。家庭での読書冊数が増加するよう連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度以降も日々分かる授業を展開する。 ○タブレット端末を効果的に活用した授業を取り入れるなど、様々な学習形態を工夫していく。 ○家庭学習で、主体的な学びができるよう学習方法や内容を提示する。 ○児童が自ら「発表・表現がしたい」と思う授業になるよう指導方法の改善を図る。 ○特別活動と関連付け、「発表・表現」の体験を豊かにし、友達や身近な人と協力し、活動する楽しさを体感させ、自発的な活動への欲求の高まりを図る。 ○授業中の隙間時間では、児童はよく本を読んでいる。一方、家庭での読書は少ない。保護者にも読書推進の協力を求めていく。
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・保護者から一定の評価を得た。生徒指導で全教職員が共通理解のもと指導にあたり、保護者への連絡を迅速に行うなど、児童や保護者との信頼関係を築くことができたためと考える。 ○あいさつ運動を推進し、進んであいさつできる児童が増えた。しかし、地域ではまだあいさつができていない姿も見られる。 ○今年度のアンケートから、「教職員」を主語にしていた質問を「わたし（児童）」に変えたところ、達成率が前年度を大きく下回った。約3割の児童がいじめ等の問題解決に向けて行動できていないと感じており、先生任せで受け身であることが数値で明らかになった。問題を自ら解決しようとする、主体性を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題解決に向けての主体性を高めていく。今年度から特別活動の研究に取り組んでいる。児童が、自らの思いを伝え合い、自分の願いを実現し、学校生活をよりよくしていく経験を積み重ねていくことで、問題を解決していこうとする実践力を育てていきたい。 ○学習の基盤となる資質・能力の一つである言語能力を育成し、日常生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高めたい。 ○児童会の朝のあいさつ運動の呼びかけ等の活動を継続するとともに、教師や友達同士だけでなく、学校への来客や、登下校時に朝の交通立哨をしてくださっている人や地域の方に元気よくあいさつができる児童を育成する。 ○児童の人権意識を高め、いじめ根絶に努める。学んだことを実生活に活かせるようにする。
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ○運動好きで体力・運動能力の向上を図っている児童とそうでない児童との二極化が進んでいる。 ○ヘルスレンジャーを実施することにより就寝時間や、基本的な生活習慣が定着しつつある。今後も家庭との連携を図り指導にあたる必要がある。また、引き続き徒歩での登下校についても呼びかけていきたい。 ○防災意識の評価が昨年度よりも高かった。実際に3次避難場所である市営住宅まで行くことで、避難経路について確認することができたことがよかったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も各種記録会等へ積極的に参加する。運動が得意でない児童へも練習への参加を呼びかける。外遊びの推奨も継続していく。 ○ゲームや動画視聴について、スマホ・ゲーム教室をできるだけ早い段階で親子で学ぶ機会を設ける。低学年からも指導していく。 ○朝ごはんについて、今後栄養バランスの整った食事が摂れるよう呼びかけていく。 ○関係諸機関と連携を図り、安全な通学路の保全に努め、徒歩通学の推奨を継続する。 ○有事に生きる避難訓練を、保護者や地域とできるようにする。